

奈良県立医科大学附属病院長 選定理由書

1. 選考資料

奈良県立医科大学附属病院長候補者選考委員会は、吉川公彦氏から提出された「履歴書」、「主な実績」、「所信表明書」及び5名の推薦者による「推薦書」並びに面談でのプレゼンテーション及び質疑応答並びに「奈良県立医科大学附属病院長選考基準」を選考資料として病院長選考を進めた。

2. 病院長選考基準に照らしての評価

基準1「人格が高潔であること」について、既に6年にわたって奈良県立医科大学附属病院長を務め、この間未曾有の新型コロナウイルス対策にあたるなどその職責を十分果たしていることに鑑みて、基準に合致していると評価する。

基準2「臨床研修等修了医師であること」について、履歴書に記載のとおり、基準に合致していると評価する。

基準3「医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有していること」について、医療安全管理責任者経験を有し、医療安全に関するガバナンス強化と文化の醸成に向けた施策の展開について、医療安全管理委員会、監査委員会による自己点検と内部統制の強化や、重大な有害事象発生時におけるタイムリーな検証と再発防止策の実施など具体的な対策を示しており、医療安全のさらなる向上を期待できることから基準に合致していると評価する。

基準4「組織管理能力等、当院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有していること」について、現病院長として副院長やプロジェクトリーダー等との綿密な情報・意見交換による組織の意思決定、チームの合意形成、目標と成果の管理を実践していることから基準に合致していると評価する。

基準5「将来にわたって持続可能な病院運営ができるような適切なマネジメント力及び優れた病院経営能力を有すること」について、現病院長としての手腕を発揮し、外来・入院患者数をコロナ前に回復し、病院収入もコロナ前を超えたことに加え、経営の安定化や人材の育成と組織の強化について、高度急性期・専門医療の集中管理の実施や、医師、看護師など様々な職種が対等に議論できる環境の整備等、具体的な方針を示していることから基準に合致していると評価する。

基準6「人との信頼関係を重視し、社会規範、コンプライアンスを遵守できること」について、現病院長として、職員との積極的な対話により良好な信頼関係を構築し、高い倫理観に基づいた姿勢は多くの職員の模範となっており、基準に合致していると評価する。

基準7「奈良県立医科大学附属病院の理念を実現するための熱意、戦略、実行力があり、将来ビジョンを有すること」について、本学附属病院が奈良県民を守る最終ディフェンスラインとしての役割を理解し、「24時間365日のER」を運用するなどの実績に加え、基幹病院としての機能充実や地域医療機関と

の機能分担、緊密連携の推進、各領域の担い手となる医療人の育成等、将来に向けた明確なビジョンを持っていることから基準に合致していると評価する。

基準8「法人の運営について、他の役員と一致団結して、公立大学法人奈良県立医科大学の発展に貢献できること」について、現病院長として附属病院の運営を行うとともに、中期計画目標の達成に向けて、高度・先進医療の開発及び普及、良き医療人の育成などに他の役員と連携し取り組んでいることから基準に合致していると評価する。

基準9「医療従事者の働きがいのある環境整備についてリーダーシップを発揮できること」について、医療技術者の補充、適正配置等によるタスク・シフト/シェアの推進及び作業効率の改善や、チーム医療を推進することによる意思決定の迅速化、あらゆる職種に対する作業の安全性と効率性を考慮したIT導入の推奨等、働きがいのある環境整備に関して具体的な取り組みを示しており、更なるリーダーシップの発揮を期待できることから基準に合致していると評価する。

基準10「臨床研究を推進するための戦略と実行力を有すること」について、現病院長として臨床研究の推進に努めてきており、今後も一層の体制整備の推進を期待できることから基準に合致していると評価する。

3. 結論

吉川公彦氏を次期奈良県立医科大学附属病院長候補者として、理事長に推薦する。

4. 選考経緯

令和8年	1月	7日	選考委員会の設置
	1月	30日	第1回選考委員会 開催 選考基準の策定、告示文書の決定
	2月	2日	選考基準の公表、公募開始
	2月	16日	公募締切
	2月	20日	第2回選考委員会 開催 選考対象者との面談、質疑応答、候補者の決定